



まなざしを交わし合いさわやかなあいさつを 広げる家庭・学校・地域の輪

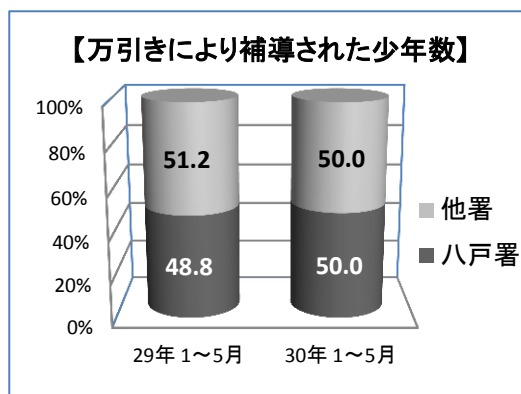
～温かなまなざしと笑顔で少年非行防止～

右のグラフは、万引きにより補導された少年数（県全体と八戸警察署管内との比較）を表したものです。本年1～5月期間の発生件数の割合は昨年に比べ増加しており、その割合は県全体の半数を占める大変憂慮すべき状況にあります。

このような状況を踏まえ、各学校では中学校・高等学校に結成されたJUMPチーム、小学校に結成されたリトルJUMPチームを中心とした全校児童生徒による「万引きしま宣言」の唱和など少年非行防止活動に取り組んでいます。

万引きをはじめとした少年非行を防止する環境づくりのためには、「相手の目を見て、さわやかにあいさつをすること」が重要であるといわれています。温かなまなざしを交わし合い、心を通わせてあいさつをすることで、家庭・学校・地域の輪が広がります。

情報化社会であるからこそ、人と直接会って話をしたり、笑顔を交わし合ったりするなどの「ふれあい」を大切にしたいものです。未来の担い手である子どもたちは、まさに八戸の宝です。その子どもたちを、家庭・学校・地域の輪で育てていきましょう。



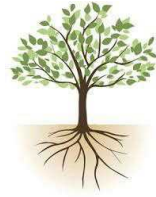
スマホやゲーム機などのメディアが奪う 家庭の温かなまなざし



情報化社会の中で、スマートフォンやゲーム機など様々なメディアが普及してきました。また、次々と新しいメディアも登場しています。

独立行政法人国立病院機構仙台医療センター成育医療センター・小児科 田澤雄作先生は、子どもたちのメディアとの過剰な接触に対して、警鐘を鳴らしています。例えば、1日に4時間メディアに接触すると、起きている時間の約4分の1、つまり12歳になるまで3年分の現実の世界の体験機会を失うこととなります。田澤先生によると、メディアとの過剰な接触は、身体のみならず脳や心の慢性疲労を引き起こし、子どもたちは笑顔を失い疲れ果てるといいます。また、家庭内でも「ながらスマホ」などにより、メディアによって保護者からの子どもへの「温かなまなざし」が奪われることで、昨今の社会的現象（理由のないいじめ、むかつく、キレル、不登校など）や反社会的事件の発生につながる可能性が危ぶまれます。温かい笑顔とまなざしの中で育つ子どもは「生まれてきてよかった、愛されている、生きていていい」という自分を大切にすると周囲との絆を胸に大人へと成長していきます。そして、失敗や挫折を乗り越えていく力も身につけていきます。ぜひ、家庭で直接顔を合わせ「家庭の温かなまなざし」を交わし合う時間を大切にしてほしいものです。

根を鍛えよ



八戸市教育委員会 教育長 伊藤博章

【随想】

◇新芽の淡い緑がひと雨ごとに濃さを増し見上げれば夏空になっていた。久しぶりに裏庭の木漏れ日に揺れる雑木林を歩いていると、すっかり日常を忘れてしまう。遠いまだ遊びざかりのころ、春と夏の休日には薬剤散布の手伝い、秋には収穫したリンゴを箱に入れリヤカーで運ぶ手伝いをさせられた。早朝から日暮れまで黙々と働く一家総出の重労働であった。一生懸命に働く親の背を見て、わたしたちは大きくなった。

◇父が逝^いってリンゴ畑は雑木林と草地になった。その雑木林の斜面には、樹齢百年超えのケヤキがどっしりとそびえている。斜面という悪条件のなか、大きく枝を広げて天を支えているような樹形、幾多の暴風雨にも耐え今も成長し続けていることに驚かされる。この巨木を支えているのは、地中深くのびる目に見えない根っこである。

◇台風が過ぎ去ったあと倒木の光景をよく目にする。太く整った樹形にくらべ、むき出しになった根はあまりにも貧弱である。よく見ると、歩道のアスファルトに囲まれた小さなマスから硬い土壌が四方に散乱していた。根を張るには厳しい環境であることは素人の目にもあきらかである。

◇昨今、異常気象や自然災害に見舞われることが格段に増えてきている。ただ木が成長していくためには風もまた必要であることを忘れてはならない。風に吹かれることで根が揺れ木は倒れないように自分で強く根を張っていく。いつまでも添え木に支えられている木は十分に根が張らないという。人間の成長とどこか似ている。子どものいのち最優先には、想定外をも想定した安全安心の環境を整備することが求められている。いかなる環境のもとでも、子どもたちがたくましく生きていけるよう心身の根っこを鍛えることが何よりも大事ではないか。